7　芸術（美術）

学校番号	１０８

平成３１年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２
使用教科書	高校生の美術２（日本文教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・普段から様々なものに興味･関心をもち、視点（線）を注ぐ。
・焦らず、慌てず、じっくり時間をかけて１つのものを創り上げる。
・構想を練るときに必要な資料を、美術室や図書館で調べる。
・作品完成までのプロセスを大切にする。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 取り組む姿勢 アイデアスケッチ	アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	授業中の様子 発言内容 鑑賞レポート（その内容）

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。　　作品提出期限厳守

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	絵画・木彫レリーフ・立体造形・動物パズル・平面デザイン	【絵画・彫刻・立体】 【工芸】【デザイン】 ・油彩、アクリル、水彩 大きさB2 具象的表現、具象から抽象化、幻想化 ・木彫レリーフ 何かを持つ自分の手 ・木を主体にした立体造形(角材を使って、空間に伸びる形) ・木の動物パズル デフォルメのしかた ・平面デザイン 校内風景のデザイン化 orポスター この中から1つ選択し、制作する ・高校展の鑑賞	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a:課題を決定したときにどう表現するか、意欲的にどう取り組むか。 b:アイデアスケッチをしっかりやり、発想と構想を多面的にとらえる。 c:意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求して表現している。 d:様々な作品を鑑賞し、参考にしながら、自分にとってどうするのかを考える。	学習活動の様子 アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品 鑑賞レポート
2学期	絵画・石彫・ジャケット、パッケージデザイン・創作絵本・ミニ椅子	【絵画・彫刻】【デザイン】 【工芸】 ・油彩、アクリル、水彩 静物画(具象、抽象、幻想) ・幻想画 イメージの表現 ・石彫 白滑石を彫る ・デザイン ジャケット、パッケージ、創作絵本 ・ミニ椅子 創作的、独創的な椅子 この中から1つ選択し、制作する	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		a:課題に対して意欲的に取り組もうとしているか。 b:素材の特徴を生かして構想を練っているか。 C:意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求して表現しているか。 d: 様々な作品を鑑賞し、参考にしながら、自分にとってどうするのかを考える。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品

3学期	絵画(自由テーマ・模写)・ペーパーナイフ・デザイン(トランプ、顔、配色)	【絵画】【工芸】【デザイン】【鑑賞】 ・油彩・アクリル・水彩 自由テーマ、名画の模写 ・彫金 ペーパーナイフ(真鍮) 実用性と造形性 ・デザイン トランプのデザイン リアルイラストレーション 配色と構成練習 この中から1つ選択し、制作する	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:関連する資料を調べ、意欲的に取り組む。 b:柔軟な発想と構想を練り、作品の完成度を高めていく。 c:意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求して表現している。 d:様々な作品を鑑賞し、刺激をうけ、自分の作品に生かしていく。	アイデアスケッチ 制作の様子 制作途中の作品 作品

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。